

## 情報公開文書

研究の名称	皮膚生検における手術部位感染(surgical site infections: SSI)回避を目的とした予防的抗菌薬内服の妥当性に関する検討
整理番号	
研究機関の名称	国立大学法人富山大学
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学学術研究部医学系・助教・松井悠
研究の概要	<p>【研究対象者】 2012年4月1日～2024年7月31日までの期間で富山大学皮膚科を受診し、病理診断を目的として手術用メスによる切除生検を受けた患者。</p> <p>【研究の目的・意義】 手術部位感染(surgical site infections: SSI)は手術後30日以内に発生する感染症です。皮膚科では診断を目的として手術用メスを用いた小範囲の切除生検が頻繁に行われますが、術後の抗菌薬を感染症予防のために内服する意義については検討されていません。抗菌薬の供給が様々な要因に伴い不安定になる中、今後も耐性菌の出現を抑えながら適切な抗菌薬使用が臨床の現場では望まれます。当院で過去に切除生検に対して通常診療においてSSI回避を目的とした予防的抗菌薬内服の有無によって2群に分けて、術後の皮膚感染症発症に差があったかを後方視的に検討致します。</p> <p>【研究の方法】 富山大学皮膚科において皮膚病理診断のため、過去にメスによる切除生検を受けた方を対象として通常の診療により予防的抗菌が投与されたかどうかで2群に分け、抜糸時(手術1または2週間後)あるいは生検結果の説明時(手術3-4週間後)までの期間における創部のSSIを手術から予後観察等が終了した段階でカルテベースで調べ、群間で比較する後ろ向き研究を行います。 予約外を含めた再診時にSSIの診断基準に則り評価を行いSSIの有無を主要評価項目としました。また背景因子(年齢、性別、BMI、喫煙の有無、糖尿病の有無、本態性高血圧の有無、高脂血症の有無、担癌の有無、免疫抑制剤使用の有無)、採血項目(腎機能障害、肝機能障害、アルブミン値)、医学的介入因子(縫合糸の種類、担当医の経験年数)を副次的評価項目として併せて渉猟いたします。</p> <p>【研究期間】 実施許可日～2027年12月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 学会発表および英文誌での論文掲載</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法(他機関への提供の有無)	試料:本研修では試料の使用はありません。 情報:通常疾病の診断・治療に際して必要となる所見(年齢、性別、既往歴、使用薬剤など)や病因検索の際に取得し得た検査所見(アルブミン値や肝腎機能など)、初診以降の治療内容と経過を電子カルテや病理検査台帳を基に確認し、データ処理、統計学的処理を行います。 他機関への提供はありません。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院長 林 篤志

研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学学術研究部医学系・助教・松井悠
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7305  FAX 076-434-5028  E-mail <a href="mailto:yu4573@med.u-toyama.ac.jp">yu4573@med.u-toyama.ac.jp</a></p> <p>担当者所属・氏名 富山大学学術研究部医学系・助教・松井悠</p>